

SHOW HEY シネマルーム

★★★

スカイハイ—劇場版—

配給/東映

2003 (平成15) 年11月16日鑑賞

Data

監督: 北村龍平

原作: 高橋ツトム

出演: 釈由美子/大沢たかお/谷原
章介/田口浩正/戸田菜穂
/山田麻衣子/椎名英姫/
岡本綾

👁️👁️ みどころ

『スカイハイ—劇場版—』において、死後の世界にあるとされる「怨みの門」の門番「イズコ」に扮するのは釈由美子。愛のあり方をめぐる2人の男の対決と、迷える死者たちの死後の三つの選択のあり方の描き方が面白い。登場する美女たちも多数。そして、『HERO (英雄)』や『キル・ビル』ばりの美女2人によるチャンバラ対決も美しい。これならオジサンもついていけそう・・・？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<高橋ツトムと北村龍平のコンビ第2作>

高橋ツトムと北村龍平のコンビによる本作は、『ALIVE』(03年)に続く第2弾。原作となった高橋ツトムの集英社刊『スカイハイ』は、釈由美子出演でテレビ版として10作が作られたとのこと。『スカイハイ』のキーワードは「怨みの門」であり、そしてキーパーソンはこの「怨みの門」を守る門番「イズコ」だ。「イズコ」とは、迷える死者の魂を導く役目を持った人物(?)。そしてその決めセリフとなるのが、「お行(生) (逝) きなさい」であり、決めのポーズは再三コマーシャルで流されていたあの有名なもの・・・。

『スカイハイ』の原作者・高橋ツトムは、1989年の『地震震』でデビューした人気漫画家。そして、『ALIVE』や『スカイハイ』で共通して描かれるのは死後の世界。よくまあ、色々アイデアが思いつくものだ…。

他方、北村龍平監督は、1969年大阪生まれで若手監督のホープ。『ALIVE』や『スカイハイ』の他、小山ゆう原作のコミックを、上戸彩主演で映画化した『あずみ』(03年)など、マンガの原作の映画化が続いている。

＜オヤジにも分かる死後の世界のストーリー＞

『ALIVE』では小雪とりょうの二人の美女が登場したが、「隔離」、「異次物（パワー）」、「魔女」という難しい言葉や概念が飛び交い、私にはチンプンカンプンだった。

しかし、この『スカイハイ』が描く「死後の世界」は私にも十分理解できる。「怨みの門」の門番イズゴが、迷える死者たちに対して言う、「三つの選択」とは次のようなものだ。すなわち、

- ①死を受け入れて天国へ行き、再生の準備をする
- ②死を受け入れず霊となって現世を彷徨う
- ③現世の人間を一人、呪い殺して地獄へ落ちる

このようにストーリーの骨格がシンプルだから、多数の登場人物が入り組んでいても、何とかストーリーについていくことが可能。そして、斉木美奈（釈由美子）の恋人の刑事、神崎耕平（谷原章介）がいったん死んで、死後の世界に行き、今は門番「イズゴ」となっている美奈を助け、その後また生者の世界に戻ってくるというストーリーも、あまり違和感なく受け入れることができた。

＜二人の男の愛の強さは…＞

『スカイハイ—劇場版—』では、美奈の敵討ちを目指すのは、その恋人の刑事神崎。愛する彼女を想う彼の純真な気持ちは、誰にでも十分理解できるもの。しかし恋人を殺された怒りを、どこにどのように向けていくのかは難しく、さまざまな選択肢がある。そしてこの映画のテーマは、まさにそこにある。

他方、原因不明の不治の病に冒された愛妻の三輪エリ（優恵）を蘇生させたいと願うもう一人の主人公、工藤達也（大沢たかお）の愛もスゴイ。彼は遺伝子工学の権威で、大金持ちの御曹司だが、いくら地位と金があっても、愛だけは容易に手に入らない。しかしエリを蘇生させるため、彼はあらゆる努力を傾けていた。そして「死界の書」を学ぶことによって、六つの心臓を集めてこれを提供すれば、「地獄の門」が開かれるという話を信じ、ひたすらその努力を続けてきた。

これを助けるのは、エリの妹で今は工藤の秘書となっている三輪レイ（魚谷佳苗）。工藤とレイの二人は、「心臓集め」の作業を続けていく中で、次第にその「霊力」を強め、今や通常の銃器では太刀打ちできないほどのパワーを持つ状態となっていた。

＜霊力の理解者たち＞

第一から第三の凶悪連続殺人事件を捜査する神崎達だが、その神崎の恋人の美奈が四人目の犠牲者となった今も、犯人の手がかりは何もない。そんな時ヒントとなったのが、新米記者の遠山小百合（岡本綾）とコンビを組む岸一雄（田口浩正）が持つ靈感。すなわち、岸が写した写真は本人の意思に関わりなく、心霊写真となることがあるのだ。ところが、

その心霊写真に現われたのが、工藤のインタビューを名指しされて有頂天になっている遠山小百合。岸は小百合が五番目の犠牲者となる危険を神崎に訴えたが・・・。

霊力を持つもう一人の人物は、検屍医の女医、青山響子（戸田菜穂）。霊力を信じている青山響子は、岸の全面的理解者であり、岸と共に神崎を必死に説得するが・・・。

そして、最後は神殿に居を構えている霊能力者の秀芳（菊地由美）。彼女の持つ霊能力は、すべてを見通せるすごいもの。秀芳は工藤達の企みをすべて読みとっていたし、「六芒星」の六番目の心臓を狙ってくるのが、自分の神殿であることも予測していた。

そこで繰り上げられるのが女同士のチャンバラ対決。白装束に身を包んだ秀芳と、黒づくめのレイとの対決は美しく見モノ。果たしてその勝敗の行方は・・・？

<主演は釈由美子だが…>

『スカイハイ―劇場版―』の主演はグラビア・アイドルとして、男達目を楽しませてくれた釈由美子。映画のスクール写真では、この釈由美子がイズコとして、「お行（生）（逝）きなさい」とポーズを取る場面が使われている。

しかし、この『スカイハイ―劇場版―』に登場する美女は、釈由美子の他にもたくさんおり、それぞれに魅力いっぱい。だからオジさん達も結構楽しむことができる。

まず、釈由美子は、もともとはイズコではなく、神崎の恋人の美奈。そして今日は晴れの結婚式。ところが教会の式場のドアが開くや、花嫁の美奈は心臓が奪われた状態で真っ赤な血を流しながら、ヴァージンロードを歩く羽目に…。

そして、最初の門番のイズコは椎名英姫の役。

この椎名英姫は、レイとのチャンバラ対決で敗れるものの、結構スッキリとしていい役。

また、美奈の先輩（？）として先に心臓を奪われていた犠牲者は、

- ①早苗（浅井江理名）
- ②香津美（小田瑞穂）
- ③伊藤摩耶（山田麻衣子）

の三人だが、それぞれ美人ばかり。この「死者」たちのグループの「会話」も結構わかりやすく面白。

そして美奈が四人目の犠牲者であり、さらに五人目が新米記者の遠山小百合（岡本綾）だ。そして「六芒星」を完成させるための六番目の犠牲者となるのは・・・？それはなんと霊能力者の秀芳だったが・・・？

この映画の中で最も華やかで、『キル・ビル〜KILL BILL〜Vol. 1』(03年)におけるザ・ブライド（ユア・サーマン）VSオーレン・イシイ（ルーシー・リュー）の対決を彷彿させる、秀芳VSレイの勝者は・・・？

<この映画でもチャンバラ対決が見モノ！>

最近チャンバラ対決が花盛り。近時の日本映画での本格的なものは、『たそがれ清兵衛』（02年）における真田広之VS田中泯や、『壬生義士伝』（03年）の中井貴一VS佐藤浩一。また最近では、北野武の『座頭市』（03年）、そして何といってもすごいのが『キル・ビル～KILL BILL～Vol. 1』（03年）におけるユア・サーマンVSルーシー・リューの女同士の対決だ。

『スカイハイ―劇場版―』では、チャンバラ対決が三つ。その1は、門番のイズコVSレイで、その勝者はレイ。その2は、メインの女流対決で、秀芳VSレイ。その勝者は秀芳。そしてその3は、ハイライト場面の、イズコとなった美奈VS工藤。女と男の対決であつてもハンディ・キャップはなし……。その勝者は工藤に決まりかけていたが、現世から死の世界へ応援部隊として登場した神崎の「援護射撃」によって、状況は一変してイズコの美奈の勝ち……。

<ズームアップ、釈由美子>

2003年11月17日（月曜日）の朝日新聞夕刊は、ズームアップの欄で『スカイハイ―劇場版―』の釈由美子を取りあげ、「これが女優、釈由美子の第一歩」という彼女の意気込みを伝えている。

釈由美子の本格的アクションは、小池一夫の原作を藤田敏八監督が、1973年に梶芽衣子主演で映画化した『修羅雪姫』の、リメイク版『修羅雪姫』（01年）以来のこと。『キル・ビル～KILL BILL～Vol. 1』（03年）のクエンティン・タランティーノ監督は、梶芽衣子の大ファンで、「美人＝梶芽衣子」と信じているとのことだが、釈由美子が「今風の梶芽衣子」となれるかどうか、今後の彼女に期待しよう……。

2003（平成15）年11月17日記